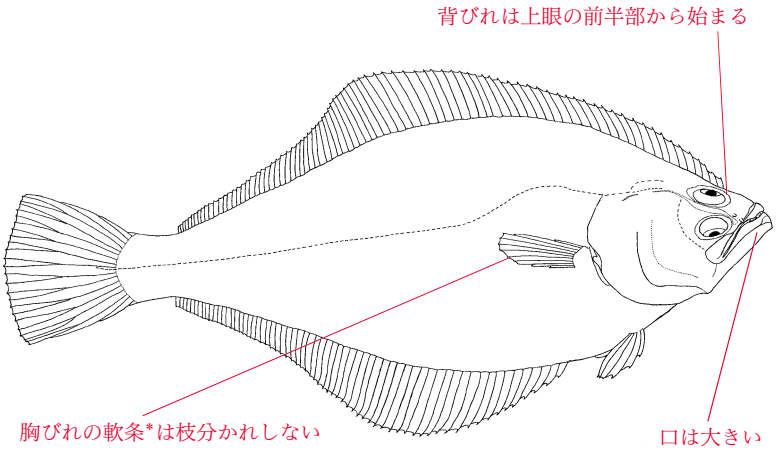
カレイ目Pleuronectiformes カレイ科Pleuronectidae



60. アカガレイ *Hippoglossoides dubius* Schmidt　図版24

英　名　flathead flounder, red halibut
露　名　южная палтусовидная камбала（ユージナヤ パルトゥソウィードナヤ カムバラ）
地方名(北海道)　ミガレイ、ミズクサ、アカ
漢　字　赤鰈（あかがれい）
アイヌ語名　ニナアチャ

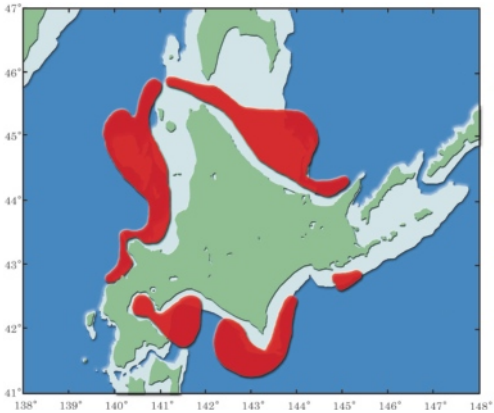
【形態】　体は強く側扁（そくへん）*し輪郭は長円形。口は大きい。上あごの歯は大きくて犬歯（けんし）*状、下あごの歯は円錐（えんすい）形である。両眼は完全に有眼側*にある。両眼の間は著しく狭く、数列のうろこで覆われる。側線*は胸びれの上方でわずかに湾曲する。尾びれの後縁は丸い。雌の体表は円鱗（えんりん）*で覆われ、雄の体表には櫛鱗（しつりん）*が多い。吻（ふん）*にうろこはない。

有眼側の体色は淡褐色。無眼側*は通常白色だが、底びき網や刺し網で漁獲されると、内出血したように赤くなる。

【生態】　オホーツク海側ではカムチャツカ西岸域から北海道まで、太平洋側では北海道から金華山（きんかざん）沖まで、日本海側ではサハリン西岸から島根県沖まで分布する。

生息水深は金華山沖では300～450m、日本海南部では200～500mと深いが、北海道周辺では主に250mより浅い。底層水温が周年10°C以下の海域に生息

し、2～7°Cの所に多い。産卵期になると、成魚*は沿岸に移動し、石狩湾では水深40～100m、噴火湾では長万部（おしゃまんべ）から森沖の水深30～60mの砂泥域で産卵する。



北海道におけるアカガレイの漁場

北海道周辺に分布するアカガレイには、日本海北部・オホーツク海系群*とえりも岬以西太平洋（噴火湾）系群の2群が考えられている。前者は積丹（しゃこたん）半島以北の北海道日本海沿岸を主産卵場とし、積丹半島以北の日本海からオホーツク海までを成育場とする。

日本海で産み出された卵やふ化した仔魚（しぎょ）*は対馬（つしま）暖流*によって広く拡散され、一部はオホーツク海にまで運ばれる。これらは稚魚*となり積丹半島以北の水深250mを中心とした日本海とオホーツク海の水深100～200mの海域に着底*し、未成魚*期までをそこで過ごす。オホーツク海で成長した群は産卵のために日本海に回遊*し、日本海の群と合流する。これに対し、えりも岬以西太平洋系群は噴火湾を中心とした海域で一生を過ごす。

産卵期は積丹半島以北の日本海では3～5月であり、噴火湾では2～3月を盛期とする1～4月である。成熟*魚の割合が50%に達する年齢は、雄が4歳、雌が5歳であり、北海道周辺に分布するマガレイやソウハチなどほかのカレイ類に比べてやや高齢である。抱卵数*は体長*が大きいほど多く、体長25cmで約10万粒、30cmで約30万粒。多回産卵*で、一生に何度か産卵に参加する。

耳石（じせき）*やうろこにできる年輪で年齢が分かる。うろこの年輪は有眼側の尾柄（びへい）*部のものが見やすい。

年齢と体長との関係は、地域差が大きく、同じ海域でも年級群*の資源量によって異なる。噴火湾では4、5歳まで雌雄の成長差がほとんどなく、1歳で体長約7cm、4歳で13～16cmである。5歳以上になると雌の成長が良くなり、5歳で雄14～17cm、雌14～19cm、6歳で雄16～19cm、雌16～21cm、10歳で雄19～22cm、雌22～26cmである。

卵は分離浮性卵*で油球*がなく、囲卵腔（いらんこう）*が広い。沿海地方南部のピョート

ル大帝湾で行われた人工受精では、卵巣内の完熟卵*の平均直径は1.23mmであったが、受精後は囲卵腔に水が入り込むため、受精後２時間で1.5倍の直径となり、11時間後には平均直径2.31mmにまで膨張した。卵巣内の完熟卵の直径は地域差があり、噴火湾では0.8mm以上、石川県沖では平均0.79mmであり、ピョートル大帝湾のものより小さい。

受精からふ化までの日数は平均水温7.9℃で13日、9.9℃で９日である。ふ化直後の仔魚は全長*３～４mmで、全長５mmまでに卵黄を完全に吸収する。仔魚の体は細長く、尾部が長く伸びる。変態*は全長19～27mmで始まり、全長25～30mmで完了する。

噴火湾では、卵や仔魚は１～３月に湾の中央および豊浦(とようら)沖から鹿部(しかべ)沖に多く出現する。

主な餌は、ふ化後まもない仔魚では珪藻(けいそう)*類などの植物プランクトンや無脊椎(せきつい)動物の卵、その後全長８mmまでにはカイアシ類*のノープリウス*に変わり、着底前後の全長21～35mmの稚魚ではカイアシ類のコペポダイト*、オキアミ類*の幼生*、ゴカイ類*などである。

未成魚と成魚の食性は季節や海域によって異なり、きわめて多様である。大きな口、鋭い歯、長い胃などの形態は魚を食べるのに適しているが、クモヒトデ類*、二枚貝類、エビ類、オキアミ類、小型魚類、イカ類などさまざまな生物を餌とする。成魚は産卵期の前後にイカ類や小型魚類を多く食べ、産卵期間中にはほとんど餌をとらない。噴火湾ではスケトウダラの幼魚*が産卵期前後の重要な餌となる。